

# KTK ひゅうまん 京都

No 536 2021年7月号

編集／京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内  
編集発行責任者／池添 素 電話&FAX(075)465-4310 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

- P1 左大文字 つどめ
- P2 常任委員会から 池添 素
- P3 障害のある人の暮らし 沖田友子
- P4 血の染みついたバトン 中村 暁
- P5 障害者と共に歩んだ京障連の50年 松本 美津男
- P6 ジョナさんの補装具費裁判から見てきた課題 民谷 渉
- P7 つれづれあらぐさ 中山 恵美子
- P8 2+2=詩 赤富士文兼
- P9 障害のある人の権利を守る北障連から 濱中 博
- P10 365歩のマーチ 安藤 史郎
- P11 知っ得情報 松本 美津男
- P12 そして、今のわたし 田中昭雄

## 左大文字

### 「骨太方針」

政府の「経済財政運営と改革の基本方針」、いわゆる「骨太方針2021」が6月にリリースされた▲そこに「ヤングケアラー支援」が入ったことが関係者の中で話題になっている。霞が関のロビー活動の「プロ」に言わせれば、この骨太に1文字1行入れることがどれほど意味あることか。政府の財政運用の錦の御旗を得たようなものだ、と聞いて驚いた。最近の「ヤングケアラー」情勢を見ればなるほど、とも思う▲で、と聞いて、この「骨太方針2021」を隅から隅まで目を通した。あの私たちの政策はどうなったのだろうか。体調不調を理由に2度も政権を放り出したあの方が大見えを切ったのだろうか。体調不調を理由に切ったのだろうか▲消えていた。あれは、2015年のことだった。「ニッポン一億総活躍プラン」と華々しく打ち上げた。このプランは翌年「骨太方針2016」にも引き継がれた。何もかもが大仰で芝居がかかったスローガンだったが、その新経済成長3本の矢の一本に私たちの「介護離職ゼロ」が掲げられたのだ。やっと社会の関心も追いついてきた！眉に唾つけながらも、少し「感動」しながら目を通していた▲やはり、眉唾だった。派手にアドバルーン上げて何の成果も残さずにフェイドアウトだ。ただ「介護離職ゼロ」を求める実態が消えたわけではない。むしろコロナ禍での実態はより深刻になっているのではないか▲「介護離職ゼロ」を今度は政権の「交代方針2021」に！

つどめ



「夏がきた」  
渡辺あふる

# 常任委員会から

## 〈怒りの3連発 その1〉

返しは秋の衆議院選挙で。

## 〈その2〉

4回目の緊急事態宣言が出た  
東京で、東京五輪が強行されま  
す、それも無観客で。選手のモ  
チベーションが心配、変異株の  
感染拡大の心配は、ついでに観  
光しに京都になってことになっ  
たら、少し落ち着いている関西  
方面も感染爆発になるのでは  
心配、挙げればきりがありませ  
ん。なのに、なのにオリンピック  
は7月23日に始まります。五  
輪は今や経済の具として、莫大  
な利権が渦巻くスポーツへと変  
貌。「アンダーコントロール」と  
下手な英語で世界に原発安全の  
大嘘をついた前首相。「国民の安  
全安心」と誰もが信用しない言  
葉を何度も壊れたテープのよう  
に言いながら強行する今の首  
相。どちらも、国民を馬鹿にし  
て大きな顔をしています。仕

か。観光客をあてにした市政の  
失敗であることは明白。それと、  
「ほんとに京都市は赤字なの  
か」という疑問を呈している人  
もいる。本誌連載の中村曉さん  
は「もう一度これまでの財政資  
料をあたってみる必要があるの  
では」と。「お金がない」と脅か  
して市民サービスを切りたかつ  
ただけなのではとも。

## 〈その3〉

「ワクチンが届かないから予  
約がキャンセルになった」とい  
う方が出てきました。みんな  
ワクチンを打とうのキャンペー  
ンを国はやっていたのではな  
かったか。ワクチン大臣まで作  
って取り組んでいたのではない  
か、なんとという無計画で無能な  
ことか、あきれまます。  
ワクチンを打たない人の人権  
を守ることも大切、早く打ちた  
い人には早い保障は当然。でも、  
そのどちらも危ういこの国  
は、どうなっているのだろうか。

コロナ禍は、たくさんのことを人  
間に教えてくれています。国産の  
ワクチンの開発が進んでいないこ  
とも、基礎研究の大切さや技術開  
発を企業任せにせず、国の政策で  
進めていくことを教えてくれたの  
ではないか。この地球では、コロ  
ナだけではなく、まだまだ未知の  
ウイルスとの付き合いが待ってい  
ます。コロナウイルスも、今後の  
展開が読めているわけではありま  
せん。ワクチンの効果さえはつき  
りしないなかで、打ってからの効  
果を確かめるすべもお手上げ状態  
です。怒りを抑えるのではなく、  
声をあげるすべを取り戻して、大  
いに怒ろうではありませんか。

〈新連載が始まります〉  
沖田友子さんの「障害のある人  
の暮らしと誰とどこに住むか選択  
できる権利を！ 息子が入居する  
グループホームから見えてくるも  
の」①が今号からスタートしま  
した。

池添素（京障連事務局長）

## 障害のある人の暮らし

### 誰とどこに住むか選択できる権利を！

沖田友子

息子が入居するグループホームから見えてくるもの①

6月中旬、緊急事態宣言発出中のところ、グループホームの運営法人から入居する利用者の家族に集まってほしい、早急に伝えたいことがあると連絡があった。そこで提案されたのは、グループホームの赤字が膨らんでいる、運営の在り方を抜本的に見直す、具体的には宿泊日数を週5日開設から週4日に減らし、人件費の抑制を図りたいというものであった。

(グループホームの開所は365日となっているが、体制上週5日しか宿泊できない)  
私の息子は先天性特定疾患で身体障害と知的障害のある常時

介護が必要な重度の障害者である。30代後半の今、両手引きでゆっくり歩くことはできるが、車椅子が手放せない生活だ。小さいころは泥んこ遊びが大好きで、何でも口に入れて確かめていた。人に興味があり、かわいい子どもや女の子を見ると嬉しくて大きな声が出てしまう。言葉がないのでおながへるとぼんぼんとおなかを叩いて教えてくれるので、慣れた人とはコミニケーションできる。

将来誰とどこで暮らすのかを考えたのは、高等部になったころだっただろう。きょうだいもいずれ家を巣立っていくだろうし、自宅以外の場所で眠れたり、家族以外の人から食べさせてもらったり、排せつ排便

できるようになることなどをヘルパーさんをお願いして経験を積み重ねていた。移動支援や短期入所の利用である。京都市内いくつも入所施設を併設する短期入所を見学したり、お試して泊まってみたりしたが、眠れない等の理由でやっと思いついたのは、京都府下の高速道路を利用して1時間以上かかる施設の短期入所だった。自宅で入浴介助の支援や短期入所利用を15年ほど続け、関わってもらえる支援者が増えていく中、日中通所している法人でグループホームを開設されることになったのが2015年のことである。新しいグループホームに暮らしの場を確保でき、これで将来にわたり安心できたつもりだった。

「誰か(自宅に帰る?)」週末自宅に帰ってきたとき、びっくり、この服はパジャマですよ、など。

障害者権利条約には「どこで誰と生活するか選択する機会を有する」「地域社会の孤立隔離を防止するために必要な在宅サービス居住サービスその他の地域社会支援サービスが障害者が利用する機会を有する」とある。

親亡き後の暮らしをどう考えていくか、息子のグループホームのことは通して障害者の豊かな暮らしについて考えていきたいと思う。

やっと思いつくり眠ることができると思っていたが予想外のことが次々に起こる。「熱が出ました、迎えに来てください」「他の利用者が熱発です。どうしま



# 血の染みついたバトン

中村 暁（医療ジャーナリスト）

## ⑦供給不足の背景に みえるもの

新型コロナウイルスワクチン

の供給制限である。

の供給不足で、医療界は半ば騒然、半ば呆れと諦め、といったところか。この問題は、本当のところ何が起きているのかよくわからない。報道が提示するのは直近の事実ばかり。それらをつなぎあわせると全体像の輪郭がようやく見えかけるのだが、いちばん大事な部分がぼんやりしている。

ここまで、とにかく打ちまくれとがなり立てる国家の号令を受け、大多数の住民にワクチンを接種する上空前、未体験の大事業を担わされた市町村は医師会と協力し、手探りで体制をつくり、何とか接種開始に漕ぎつけた。保険医協会などにあ

れこれ意見を浴びせられながらもようやく波に乗り始めた矢先の供給制限である。

供給不足は国が突然「職域接

種」を始めたことと関係がありそうだが、ありそうだが核心がつかめない。モデルナ社製ワクチンの使用、1000人以上接種が条件、必要な医療従事者や会場確保は企業や大学等が自ら確保。職域接種は瞬く間に拡大し、そして躓いた。モデルナ製ワクチンの供給が追いつかなくなっ

たらしい。職域接種の新規受付は停止された。ところが、それと前後して自治体接種に使われるファイザー社製ワクチンの不足も囁かれるようになったのである。国はファイザー社製ワクチンが不足するはずがないとばかりの強面ぶりで、「大量に在庫



を抱えている医療機関があるはず」と犯人捜しをはじめた。実際に供給の激減が明らかになり、自治体は新規予約を抑制せざるを得なくなり、京都市も6月30日、個別接種を担う医療機関向けに供給制限を通知した。なぜこんな事態になってしまったのか。実はその理由がわからないのである。

ムが「ファイザー社製の市中在庫を調整し、一部を大規模接種用に充てる」ことで一致したという話だ。大規模接種といえば東京、大阪の自衛隊のものだけでなく、京都府ではサンガスタジアム（亀岡市）、けいはんなプラザ（精華町）に設置されている。使用されてきたのは不足するモデルナ製である。実際に7月1日、国はファイザー社製ワクチンをモデルナに代わって大規模接種会場に必要数を供給すると通知した。一方で自治体が一般に使用する数は大きく減らされる。つまり大規模接種は、職域接種や一般接種よりも優先される。これが国の意思である。なぜかはわからない。ちなみにサンガスタジアムはJTB、けいはんなプラザは日本旅行が運営を受注しているという。

大事などころはぼんやりしている。しかし供給不足の背景に利権が絡んでいるように思えて、毎日、自民党のプロジェクトチー

# 障害者と共に歩んだ京障連の50年(7)

京障連代表委員 松本 美津男

## 京都障害者文化のつどい開催

後25回開催しています。

要求集会には最初のころは行政の補助金が出ていましたが、すぐになくなり、障害者の文化行事には補助金を受けることができませんでした。

別々に行っていたバザーも一緒に行うようになり、これで少し活動資金作りができました。けれども、府政が変わって後の1982年には府が後援をしなくなり、85年には補助金も打ち切られてしまいました。

午前中は体育館で、盲学校生徒による狂言「口真似」、ろうあ協会と手話サークルみみずくによる手話劇「夕鶴」、ろう学校生徒の手話コーラス、各障害者団体合同の構成劇などが次々と熱演された。

午後からは、綿がし、もちつき、うどんなどの模擬店のならぶグラウンドでミニ運動会。向日が丘養護学校の教職員によるジャズダンスや、車イス障害者も力走するパンくい競走などがくり広げられ、最後に参加者一人ひとり

次のように報じています。

「第九回京都障害者文化のつどい」が、十一月三日の文化の日に、北区の府立盲学校で開催され、六〇〇人を超す参加者でにぎわいました。

が願いごとを書いた短冊を色とりどりの風船につけて、澄みきった秋空にいつせいに飛ばしました。

今回は、はじめて難病の筋無力症の団体が、バザーの店を出して参加したのをはじめ、北は舞鶴や大江町から、南は和束町までの広い地域からの参加があったことが目立ちました。



要求運動ばかりでなく文化的な取り組みもしようと「京都障害者文化のつどい」を開催しました。第1回は1971年9月に教育文化センターで開催し以

要求運動ばかりでなく文化的な取り組みもしようと「京都障害者文化のつどい」を開催しました。第1回は1971年9月に教育文化センターで開催し以



## ジョナさんの補装具費裁判から見えてきた課題

弁護士・民谷渉

ジョナさんの補装具費について改善されていない、ということで、2021年3月16日京都地裁判決で、画期的な勝訴を得たことは、既にお伝えしております。その後、5月号、6月号と立て続けに、勝訴判決の「その後」に、京都市と交渉をしているということも、弁護団からお伝えしております。心配されている方も多かったのではないかと、裁判の中で堂々と主張かと思えます。残念ながら、現時点ではまだ京都市との交渉の結論は出ていません。しかし、京都市と少しずつ議論が噛み合

い始めておりますので、次月以降に、良い報告ができればと考えております。

まず、今回の事件を担当して改めて感じたのは、この国の障害者行政は極めて保護的であり、数十年前から意識がほとん



この点については、行政も、これまでの慣行でやってきただけで、そこまでの悪意はない、という見方があるかもしれませんが、確かに、この手続に関わってきた人が、そこまで悪い方ばかりであるとも思えません。しかし、障害者差別解消法制の関係では、差別をしている意図がなくとも差別と認定できる、すなわち、行為者の主観は問わない、ということになっていきます。障害者行政も、当事者の意思決定を支援することをベースとして、根本的に転換していかなければいけないと感じ

ます。

もう一点重要なことは、解決するまでに、時間と労力がかかりすぎるということです。今回の裁判ではリフト機能についていい結果を得られましたが、要した労力は並大抵のものではありませんでした。2014(平成26)年11月19日に申請した補装具費の一部の支払いが、約4年半の裁判を経て、本日時点でもまだされていないわけですから、一つの申請を通すのに、7年前後、全力で争ってやつと、というのは異常としか言いようがありません。先ほど述べた障害者差別解消法制の分野では、常々、簡易迅速な紛争解決手段というものが議論されており、地方自治体の条例では、あつせん制度などが制度化されているところが数多くあります。障害福祉サービスにおいても、そうしたことは考えられないでしょうか。国に声をあげていきたいと思

# つれづれあらぐさ

あらぐさ福祉会は長岡京市にある社会福祉法人で、障害のある人たちの暮らしを支える事業を行っています。1986年に無認可の共同作業所を開所して以降、日中の通所から生活の場、ヘルパー事業所等、地域で暮らし続けるために必要なものを作り出してきました。今回の連載開始にあたり、「障害者の喜びと悲しみ、家族の喜びと苦悩、職員の働き甲斐と先が見えない苦悩…そういうことが浮き彫りになればと思います」とお話をいただきました。日々自分が経験していることや感じていることを通して、それぞれの一場面を綴れたらと思います。なお、内容については個人情報に配慮して構成しています。

## 場面⑩ 新しいバイクが

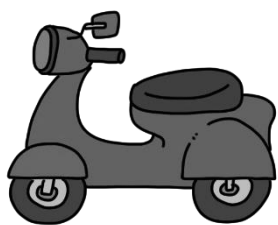
### ちよつとした話題になる

先日、20年以上乗っていた原付バイクを乗り換えました。二十歳になった時に、心配性の両親には告げず自分で購入したものです(ちなみに、3つあるピアスホールも二十歳になってすぐに開けました)。突然動かなくなったバイクは、バイク屋さんにあらぐさまで取りに来てもらいました。その様子を2階の窓から見ている？「それから「バイクどうしたん？」と毎日聞きの来ていました。「新しく買い替えようと思って」「ナンバープレートも替えなあかんし」と答えると、「え?! ナンバープレート買うの?」と驚いた表情。そしてまた、「バイクどうしたん?」の質問に戻ります。

以前、彼のお気に入りのあらぐさの車(スピードカー付き)が廃車になる時は、そのことを伝えて最後に記念写真を撮りました。自分の心づもりと違ったり期待が大きくなりすぎたりすると、彼は身動きがとれなくなりません。数年前には、中山の顔を見た瞬間に調子が悪くなったことがありました。“普段と眼鏡の色が違う”というのが理由でした。結果的に、バイクの行方を見届けてもらえたのはよかったです。新しいバイクが来ると、「中山さんのバイク、何色ですか?」「どこ停めてんの?」とすぐに気づきました。「ちよつとこっちおいで」と窓際まで手をひかれ、「あれですか?」と彼が指さした先に停まっている新品のバイクを一緒に確認しました。また、中山のバイクが故障して新しくなったことを通所やホームのいろいろな人に話していて、彼の発信力に驚かされました。

そんなある日、あらぐさで健診がありました。採血しないといけないのは分かっているし、やろうとは思っているけれど、いざその時になると体に力が入って腕をひいてしまう。彼に呼ばれて、そばで応援するこゝろになりました。眼鏡好きの彼の周りに集まる眼鏡をかけた人達。先生も協力的で「視界が暗くなるな」と言いつつ、運転用のサングラスを車から取ってきて額の上へ。採血中は「どこで買ったん?」「高かったん?」とバイクの話題で不安な気持ちを紛らせ、終わったらバイクを見に行こうと話していました。無事に採血を終えて、「これ、なんや」とメーターを指さしながらバイクにまたがる彼の姿に、ほつとした気持ちになりました。

中山 恵美子(あらぐさ福祉会)



# 2+2 詩

「虚ろ」

ふわふわと夢見心地のまま、  
きつと足なんてついていない

現実感はどこか希薄で

夢のような現を漂っている

見たような気がする何か  
変わらないような日常

いつまでも続くように思える人生  
でもいつかは終わる生命

生きている意味がない。わからない

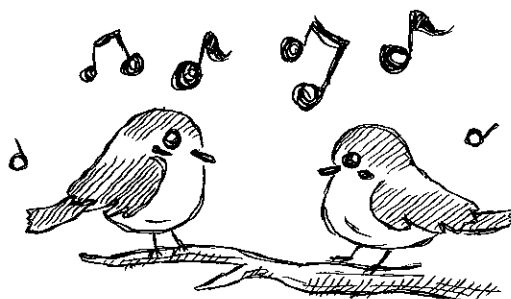
そんな青臭いことを。子供っぽいことを

頭でつかちの脳みそが無意味にこねくり回す

夢も現実もあれこれも

こね回してまぜこぜにして

そんなもので埋まって染まって見える現実を  
頼りない命たちが歩いている



「灯火ひとつ」

どこまでも広がるような草海原に、  
黄色い明りがぽつんとひとつ

色の失せた下草と苔の中、

まるで目印のようにすつくと立つ黄色い花がひとつ

大きな大きな人間の目さえ引きつけて魅了する、  
小さな小さな黄色い花がひとつ

今も記憶の片隅に咲く、灯火の花ひとつ

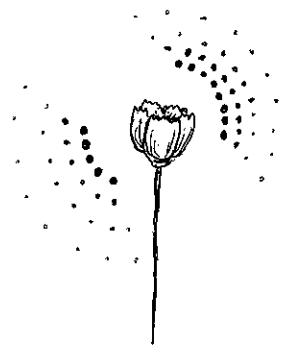
「スズメたち」

いたずら。いたずら。思いつき、大きな音で手を叩く。

びっくり驚き、スズメたち。枝から飛び立ち一目散と、  
なると思えば大間違い

知らんぷりしたスズメたち。平気な顔しておしゃべりしてる  
こちらの方がにぎやかだぞと、

チュンチュンさざめく鳴き声が、  
僕をそこから追い立てた。





## 障害のある人の権利を 守る 北障連から

濱中博

### □、二〇一四年総会々

#### 特別報告

特別報告として、医療的ケアの必要な重度心身障害児者の親の会「なごみの会」と、就学前の療育教室「わんぱくクラブ」からの報告の概要を載せます。この2団体とも、北障連の加盟団体であり、この連載の中で担当の方から活動の詳細について別報告をして頂く予定です。※今回の内容は、総会時のものです。北障連の総会では、加盟団体の取組の相互理解を図るため学習や報告を大切にしています。

### □「なごみ」の会からの 報告と訴え

「なごみの会」とは、2010年に医療的ケアが必要な人

も地域で安心して暮らし続けられるように、『花の木医療センター』のような施設を京都府北部にもとの願いを持って、与謝の海支援護学校ひまわり学級卒業生の親が中心と



「なごみ」の会：会長の仲川  
さん・重症心身障害児者の親  
亡き後の生活についての訴え

なって集まった会です。その後、丹後圏域障害者自立支援協議会「医療的ケア部会」に参加して活動を続け着実に前進が図られています。

与謝の海養護学校ひまわり学級に通学していた仲間は、卒業後は網野の桃山の里の「チューリップ」や夢織りの郷の「ひまわり」に通所し、生き生きと生活しています。その笑顔が消さないため、更なる

施策の充実が求められています。しかし、親が老齢になる中で、更なる支援をと訴えられました。

### □二「療育教室

#### わんぱくクラブ」

今から37年前に「宮津与謝地方障害乳幼児療育教室」としてスタートしました。その後、1994年に諸事情で閉室。しかし、2002年から親の自主運営で『わんぱくクラブ』として始まりました。

2004年NPO法人野田川町良い町作りの会の一事業として「児童デイサービス療育教室わんぱくクラブ」設立（国の支援費制度にのって運営）。2012年に与謝野町の大きな援助もあり、石川に新施設が完成、その後新事業の相談支援事業『ことも発達支援相談室・ぶんぶん』開始、国の事業として放課後デイサービス中高生「ふれんず」も開所しました。

「わんぱくクラブ」は、今年で12年目を迎え、当初1名でスタートしましたが、現在は就学前27名、小学生40数名（合計約70名を超える子どもたちが登録し利用しています。この他に中高生の「ふれんず」には約20名の登録があり利用しています。



太田垣美千代さん：  
療育教室「わんぱく  
クラブ」の報告・・・

就学前療育・障害児学童について無認可の時代を経て、カンパやバザーをしながら必死に運営してきたこと、そして認可施設となって取組が広がり、受け皿が出来はじめたこと北障連からの大きき支えで現在に至ったことを報告されました。

次回は総会や学習会について報告します。

# 365歩のマーチ



16 先生に教えてもらったこと？

最近、保育園からの帰り道や帰ってきてから家で園でのことを少しづつ話してくれるようになってきました。父「今日何して遊んだの？」に「むいむい！（虫見つけたよ！）」、「誰と遊んだの？」に「しえんしえー！（先生）」とうれしそうに伝えてくれます。

保育園でいろんな経験をし、毎日楽しんでるんだらうなあとほほえましく思います。

ある日の夜。寝転んでる父に向けてお腹をつき出して「チツチ」とにやにやおしっこをかけるふりをするゆいちくん。「わー！」と悲鳴をあげる父を見てげらげらと笑って見下ろしています。こないたずらが多くなってきました。「そんな誰に教えて

もらったの!？」と聞くと「しえんしえー!」。ゆいちくん、そんなことを教える先生はいません。：。

夜寝る前には、かあかに絵本を読んでもらうのが日課です。夜になると絵本をもてるだけ抱えて、「ねんね、すー（ねんねする）」と言って寝室に向かいます。寝かしつけは、最近母しか許してくれませんが、「ねんねする」と宣言したくせに、絵本を読んでもらったり、ふすまを開けて隣の部屋にあるジャングルジムに登って遊んだりしてなかなか寝ません。全然寝ないので、絵本を読んでいるところに父も混ぜてもらいに行きます。「とおとも、混ぜてー」と寝室に行くと、「いやだー」と即答。さみしい父は、くすぐった

り、追いかけてつこをしたり：なんとか遊ぼうよ寝る前なのに興奮させてしまいます。挙句の果てには「とおと、あつち、行つてー」と言われてしまいます。「ゆいちくん、そんなことどこで覚えたの：」とつぶやく父に、「しえんしえー!」。ゆいちくん、そんなはずありません。

ゆいちくん曰く、他にも先生に教えてもらったこと。父がベランダで大事に栽培しているプチトマトを「これ、あかい？」と言いながらたくさん収穫してくれました。部屋に戻り、採れたてトマトを一緒に食べました。ゆいちくんは渋い顔をして「つぱいー（すっぱい）」と言いながらもぐもぐも。しばらく目をはなしてまた見ると口は空っぽになっていました。「じょうずに食べたねー」とほめていると、母親からゴミ箱に「ぺっ」と吐き出していたという情報があり、2歳目前です。

「ゆいちくん、ビール取ってきて」と言うと、冷蔵庫の前までずりずりと動かし、イスに登って冷蔵庫を開けて「これー?」と確認してビールを取ってきてくれます。最近では、冷凍庫にある保冷材もセットで運んできてくれ、保冷剤をビールにすりすりとしてから「とおと、どーじょー」と渡してくれます。ビールを飲む父を見届け、「おいしかか?」と一言。冷たいビールをおいしそうに飲む父を見て、ビールはキンキンに冷えたものが一番!というのを知っているのですね。

：。試しにもう一つ食べてもらうと、気前よく口に入れてくれるものの、しばらくするとゴミ箱の方に歩いて行き「ぺっ」。これ

も先生に教えてもらったそうです。

※

「ゆいちくん、ビール取ってきて」と言うと、冷蔵庫の前までずりずりと動かし、イスに登って冷蔵庫を開けて「これー?」と確認してビールを取ってきてくれます。最近では、冷凍庫にある保冷材もセットで運んできてくれ、保冷剤をビールにすりすりとしてから「とおと、どーじょー」と渡してくれます。ビールを飲む父を見届け、「おいしかか?」と一言。冷たいビールをおいしそうに飲む父を見て、ビールはキンキンに冷えたものが一番!というのを知っているのですね。

いろいろなことを見聞きして、世界を切り開いているゆいちくん、2歳目前です。

# 知っ得情報

## 外国籍障害者給付金

松本 美津男

国民年金制度改正前に20歳に達していた等の理由で、障害基礎年金等を受けることができない重度障害のある外国籍の人たちに対する自治体の給付金があります。

自治体により内容が異なりますが、ここでは京都市の「外国籍市民重度障害者特別給付金」を紹介します。

### 〈内容〉

#### (1) 対象者

重度障害のある人で以下のすべてに該当する人

○1982年1月1日(以下「基準日」という)前に満20歳に達していた人で、同日において日本国内で居住地登録をしていた人

○基準日前に重度障害者であった人又は同日以後に重度障害者となった人で、その障害の発生原因となった傷病に係る初診日が同日前に属する人

○障害基礎年金等(障害厚生年金を除く)を受けていない人

#### (2) 特別給付金の額

月額41,300円

ただし公的年金等を受給できるときは減額あり。

### 〈問合せ先〉

区役所・支所保健福祉センター健康福祉部障害保健福祉課



## あなたもぜひ 仲間に

サロン・サークル・地域活動展開中  
生活支援スタッフ(資格不要)募集中  
介護職員(資格要)募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう  
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります(随時)



あなたも支える存在に

京都市北区紫野東野町1-5  
電話075-432-3636

## 命の平等をかけた、 無差別平等の医療と 福祉の実現をめざす

### 働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



## 京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: [info@kyoto-min-iren.org](mailto:info@kyoto-min-iren.org)

ありがとうございます

**年会費** 京都府生活協同組合連合会・井上美紀・澤月子・西村清忠・加門眞理子・石黒憲一・西野美幸・松本真一・増田康夫・原哲夫・藤木信子・芦田賀寿夫・小林賢一・菅令子・栗飯原利弘・松尾英巳道子・百上真奈・西山治・北山忠生・宮本茂樹・山田和幸・福島利夫・竹口宏樹・松本義朗・米盛晴江・是澤朗・木下憲二・江村裕之・角井俊之・平井栄子・中川恵子・田場智代子・重田純一・竹井登志郎

**分担金** 京都府立高等学校教職員組合・自由法曹団京都支部・保健福祉の会・京都府聴覚障害者協会・京都府民主医療機関連合会・京都市職員労働組合・全国福祉保育労組京と地本・京都自治労連・京都肢体障害者友愛会 (敬称略・2021/7/4)



## そして、今のわたし



田中昭雄 (京都ライトハウス「船岡長寿サロン はなしのサロン」運営委員)

私の人生を二つに分けると、見えていた頃の前半と見えにくくなった後半、そのいずれにも大きく関わったのは馬である。

生まれは兵庫の須磨で、午年。4歳で京都府園部へ疎開。父の仕事の関係で小学校から堀川高校卒業まで京都市内をあちこち転居した。高校卒業後、知人が馬の世話の仕事を紹介してくれた。戦前、騎馬隊に所属していた伯父をカッコいいなと思っていたので喜んで就職した。

職場は滋賀の栗東トレーニングセンター、現在のJRAトレーニングセンターで、調教師の高橋さんのもとの20数年間、調教助手として勤めた。

45歳の頃、突然右目の視力が弱くなったため馬の世話に変わったが、結局は退職した。京都に戻ってしばらくすると、太秦の東映撮影所から仕事の依頼が来た。撮影用の馬10頭ほどの世話をするのである。

そこでかれこれ10年弱、馬の世話に従事するかたわら、映画の中で手綱を引いて渡月橋を渡ったりしたが、難しい乗馬シーンの撮影には実際に私が乗った。時代劇なのでカツラと鎧兜の衣装を着けて走り回ったり落馬したりした。当時は右目の視力が弱かっただけなので、そのようなこともできたのである。その縁で、何人もの俳優さんたちとお近づきになった。テレビや映画の時代劇でご存じの名優揃い。とても楽しく充実した日々だった。

時代の波で撮影所が閉鎖されて、私は失職した。馬を引き連れて京都の北東、市原に馬小屋と馬場を整備して馬の世話を続けたが、エサ代などに苦労した。馬よりも妻に心配をかけたのは言うまでもない。

そのうち京都市から依頼があり、葵祭や時代祭りで活躍する馬の世話を始めた。お祭りや行事に、滋賀・岐阜・和歌山・金沢まで馬を移動させながら2020年一杯まで続けた。ところが、コロナで各行事が中止になった。私は各地の神社を回り寄付などをお願いして、馬のエサ代は何とか得ることができている。

4、5年前に全盲になった。仕事を岸本ホールディングスに引き継ぎ、馬と祭事に伴う場所も道具一式も譲渡した。場所も市原から京北に移った。譲渡を前に、行列の仕方・馬の飾りつけの方法などをビデオに保存した。京北の馬場では大学生も手伝っているそうだが、この先の継承が気がかりである。

馬は可愛い。足音で私に気付かき呼んでいる。大きな図体で顔を摺り寄せてきたり肩を甘噛みしたり。どのお祭りでも、もっと馬を使ってくれたら嬉しいと思う。

お祭りに従事していたころ、京都御所から「神主にならないか」と声をかけられた。それで、伊勢神宮と出雲大社で勉強をして準神主になった。仕事は引退したけれど、今でも各方面から声をかけていただいている。どれもこれも馬のおかげかな。馬といわれて良かった。午年に生んでくれた両親にも感謝している。